三池闘争二〇周年

元　運搬工

木村　守

この欄は、三池闘争にかかわりをもつあらゆる人びとに、ご寄稿願つています。

もと職制の前に張る胸

毒にも薬にもならぬ男ながらも

貫いてきた〝三池の誇り〟

昭和六年、十二歳。貧乏な家に育った不幸で、口減らしのため製菓店へ徒弟奉公。

昭和十七年、二十三歳。大東亜戦争遂行の国策に添い、三池炭鉱万田坑入社。甲方本線運搬工。父（昭和十六年に死亡）なき後の家の、母、弟妹ら七人家族の世帯主に。

昭和二十二年、二十八歳。三池万田鉱に労働組合結成。だが俺、貧乏家庭を守ることで精一ぱい。

組合・会社とも、対して是々非々。

夏より、先輩山田治夫氏に感化され、短歌創作法を覚える。

労働者は血の給料を搾られて大臣ら恋の火の焚き料にする

今日も紙面に野球選手の素描あり労働者の叫びは退けられて

昭和二十六年、三十二歳。万田鉱、三川鉱に併合。丙方本線運搬工に。

昭和二十七年、三十三歳。凶刃は右腹部、腸に達する深さ五・五センチメートルの疵を受けて大手術。爾来、腸管癒着症に度々苦しむ。

昭和三十五年、四十一歳。三池闘争活発化。第二組合でき、三池労組分裂。ようやく人間性に目覚める。

職制、家に説得に。

「自分が来たのはわかっとろう」

俺――「わかっとる。しかし俺も四人の子の父親。子供に恥かしい思いはさせたくない」

職制――「そらア、どういうこつな」。

俺、歴史をひもとく。

職制――「そがんむつかしかことはわからんもんな」、と眠ってしまう。

俺、ほったらかす。

翌日の繰り込み場。昨日の職制頭を上げ得ぬ。

俺、「おーす」。職制、うつむいていた顔。そのまま坑内へ。「はーはっ」。ホッパー決戦必至。

降る雨を筵の垂れにこらえつつ己れの職場死守のピケット

戦闘配置につけの指令はマイクにていち早く夜闇を急ぐ隊列

首切り撤回成らず。

越えてゆくことならざりし苦しさがありて炭労大会続く

警官を相手の数に読む慣い強行搬出阻止のピケット

差別配役。

新労員の優先配役露骨にて運搬職にわが名無くなる

昭和四十八年、定年退職。その後は係長という奴、主席係員という奴、そろって低姿勢。俺の言うまま。

「肥ったぞー。血圧の上がっとろが」

「はい、そがんたい。木村さんは元気のよかできる」

ひとつのことを貫いた誇りに胸を張る。

×

筆者は現住所の「荒尾市岱洋区六七三」にあって、もっぱら作歌生活を楽しんでいられる人。ご投稿、大変ありがとうございました。

三池闘争での、三池労組の海上ピケの船に向つて陸上から放水する転制たち。船を沈めるため？

短歌〝春闘〟

職場20分会（三川）

町　佳郎

春闘の気分日増しに高まりぬ国鉄私鉄のスト予告出づ

賃金の目べりに因（もと）る生活の窮乏も記し春闘の機関紙作る

職場ごとに出だす機関紙の記事のなべてくらしの貧困に関わるあわれ

ストの日を花いじり子らとたわむれつ妻おれば終日心和みぬ

スト五日打ちて獲（と）りたる四五五円組織の力そを越えきれず

ストの日も休むなく街に出でゆきてビラ配布なしと友より聞きぬ

満額を獲らんとはめし腕章もスト終わればくやしみてはずしたりけり

格差なおちおまらぬ低き賃上げにわがくらし赤字のなお増えてゆくべし

散り果てて桜並木を歩みきて咲き盛る桃の咲き分けを見上ぐるしばし

個展観（み）に来よと知人よりの電話あれば傘持ちて出かくる弥生の夕べ

空に向き両手広ぐるさまに似てこぶしは白き花をかかぐる

音もなく庭木々に降る春の雨今宵兄姉（うから）に書く長き手紙

訂正とおわび

本紙前々号（四月十六日発行）の、町さんの短歌作品中用字を誤まりましたので、おわびとともに次の通り訂正いたします。

×

二首目に「正月をつどいいるらめます。

さらに七首目の作品の終り近くに、「小庭にいろどる」とあるところは「小庭いるどる」と訂正します。

三首目の作品で「しみじみと日は経ちにけり」、とあるのは「沈々（ぼうぼう）と日は……」と改

以上の通り訂正し、ご迷惑をかけたことをおわびします。

――編集部

炭価ルールはきめたい

岡田委員の質問に　石炭部長（通産）が答弁

石炭特別委

〝炭労情報〟（四月二日発行）は、産炭地域振興臨時措置法の一部改正をめぐる衆議院石炭対策特別委員会の審議のなかで、岡田利春議員（社会党・北海道選出）の第七次石炭政策問題についての質問（特に炭価問題）と、政府側の答弁を報じ、問題の重要性について訴えた。

そのなかで、右の岡田衆議院議員は質問している。

「油炭価格、内外炭価格などの格差については、基準点を設定して考えるべきであり、電気発電の高砂火力を例にとれば、カロリー当たりで国内炭二・七七円、海外炭二・四五円、C重油五・四一円となり、国内炭はすでに重油の半分、サルファーメリットを考えれば四割くらいになる。海外炭に比べても現在は高いが、将来的には大規模なコールセンターを利用しても、二次輸送にトン三千円ほどかかる。現在南アフリカ、豪州、中国などと来年度の価格交渉を行っており、十ドルアップくらいは覚悟する必要がある。従って法の精神、客観条件から千円程度は上げる必要があるのではないか」

これに対して福川石炭部長は、次のように答弁している。

「海外炭価格は、五十五年四月四十九ドルが、今年一月で五十九・五ドルとすでに十ドルアップしている。今後の安定的推移のためには、生産国の炭鉱開発、インフラ整備が必要であり、これに対する協力や供給分散化、コールセンター、二次輸送等について、海外炭問題懇談会で検討していき、コールチェーンの整備をすすめ、早め早めに手を打つよう対処してゆきたい。炭価ルールについてはきめるべきと思っているし、第七次答申のなかに新しいものを、とも思っている」

八割が改憲に反対表明

日本の公法学会

連合通信によれば、法律専門誌〝法律時報〟（六月号。日本評論社）が、公法学者の八百八十六人を対象にアンケートで調べたところ、現在の自衛隊は違憲と答えている憲法研究者が七一・三%、またその海外派兵については八八・五%の学者が違憲と答えている。

改憲論議の焦点である第九条については、九条削除賛成の一八・九%に対し、七八・七%が反対。とくに天皇の元首化には九〇・四%、兵役義務制には八八・九%の学者が反対している。動かすことのできない、学界の動向だ。

なかま

職場九分会（三川）

平野　隆利さん

▼…平野隆利さんは、父伊太郎さん（運搬工、三川）との入れ替えとして、昭和三十三年一月三川鉱に入社。坑外―機械―採炭をへて、現在A部内の乙方仕繰工。低賃金と重労働に耐えながら頑張っておられます。

▼…三池労組主催の少年野球やソ球大会などがはなやかなし頃は、原万田チームを引きつれて試合へ。三年連続優勝する少年たちに対する、彼のきびしい指導が原動力の一つにあげられます。

▼…趣味は写真。コンテストに二回ほど応募したそうですが残念ながら選外だったよし。最近トシのせいからか、植木に興味が湧き「勉強しようかなア」と。

▼…晩酌は毎晩と思っていたところ、あにはからんや、出勤日のみとか。ちょっぴりこっちが考えさせられました。

▼…静子さん（38歳）とは昭和四十年に結婚。愛の結晶は二人。長女の由美ちゃんが中三で長男の伸治君が中一。それに、お母さんを加え五人暮らし。

（宮原正満・記）

勤続23年。44歳。荒尾市原万田社宅アパート122号に。5人家族。

おわび

前号のこの欄で紹介しました宮崎勝さんの年齢五十歳を、当方の手違いから四十二歳と誤り大変ご迷惑をおかけしました。訂正しておわびいたします。

――編集部